

地域ネットワークの紹介

①

熊谷子どもまんなかネットワーク

活動エリア：熊谷市



一般社団法人
熊谷子どもまんなかネットワーク
KUMAGAYA KODOMO MAN'NACA NETWORK

②

行田子ども居場所ネットワーク

活動エリア：行田市



行田子ども居場所
ネットワーク

③

加須市子育て応援 子ども食堂・フードパントリー団体連絡会

活動エリア：加須市



加須子どもまんなか広場
こ・こ・から

県内には20以上※の
地域ネットワークがあります。
その一例をご紹介します！ ※R6.3 末時点

④

子ども食堂 ネットワークいるま

活動エリア：入間市



子ども食堂ネットワークいるま

⑤

戸田市子どもの居場所 ネットワーク

活動エリア：戸田市



戸田県立
子ども
居場所

⑥

越谷子どもサポート ネットワーク

活動エリア：越谷市



越谷子どもサポートネットワーク

詳細は
次ページへGO!

地域ネットワーク 事例①



基本情報

熊谷こどもまんなかネットワーク

活動エリア：熊谷市

加盟団体数：39団体

支援企業：7社



一般社団法人
熊谷こどもまんなかネットワーク
KUMAGAYA KODOMO MANNAKA NETWORK

主な活動内容

1. こども食堂・居場所の運営者相互の情報交換、連携、支援
2. スタッフ養成、研修、勉強会の開催
3. こども食堂・居場所に関するイベント開催

立ち上げの経緯

こども食堂運営者の立場から、こども達が歩いて行ける距離に居場所があることの必要性を訴えていました。令和4年に、東京大学主催のチャレンジオープンガバナンスで、立教大学のチームが熊谷市の課題(こどもの居場所を作る)を解決する内容でグランプリを取りました。それを機に、既存のこども食堂、飲食店経営者、地域の同志がネットワークを組み、活動を開始しました。こども食堂を知ってもらい、新たに運営を始める方のハードルを下げるために、ネットワークの役割は大きいと感じています。令和6年2月には一般社団法人化して継続的な活動を続けています。

行政と団体の連携

市とは情報交換や広報などの連携をとり、市社協からは補助金を助成してもらっています。

立ち上げ時の苦労

行政、ビジネス、福祉、ボランティアのそれぞれの分野では、言葉の使い方や考え方、行動の仕方が異なるため、ネットワークの方針を決定するためには、オープンにコミュニケーションを取り、お互いを理解することが大切だと感じました。

資金集めの方法

熊谷こどもまんなかネットワーク基金を設立し、金額を問わず支援者を募集しています。他、応援会員も募集していて月会費10,000円から会員になれます。経費計上できるため、企業支援に向いています。

仲間集めの方法

まずは、こども食堂を始める方を募集しているため、市内の飲食店のオーナーに声をかけて少しずつ仲間を増やしています。また、担い手を掘り起こすために、こども食堂立ち上げセミナーも開催しました。

ネットワークのメリット

窓口が一本化できます。企業や行政への要望など、個々の団体では調整が難しいことも、法人格を持ったネットワークとして要望できるので、信用度も高く、効率的に実施できます。また、紹介冊子やチラシを作ったりSNSで広報活動したり、個々の団体の負担を減らすことができます。

地域ネットワーク 事例②



基本情報

行田子ども居場所ネットワーク

活動エリア：行田市

加盟団体数：10団体

支援企業：2社



主な活動内容

1. 加入団体における運営会議の開催
2. HPやSNS、パンフレットを通じた情報発信
3. 加入団体間での支援物資の運搬、共有

立ち上げの経緯

これまでは個々の子ども食堂として活動していましたが、運営の課題や支援の必要性を共有する中で、他の食堂との連携の重要性を実感しました。

それぞれの食堂が直面する課題やニーズは多岐にわたり、一つの食堂だけでは解決が難しいです。そこで、情報やリソースを共有することで、全体の運営をスムーズに進められると考えました。また、ネットワークを通じて成功事例や効果的な運営方法を広めることで、新しく食堂を始めたい団体や個人のサポートも可能になると考えました。

さらに、スポンサーや行政からの支援を受ける際も、ネットワークとしての活動が信頼性を高め、支援を受けやすくなるため、ネットワークの立ち上げを決意しました。

行政と団体の連携

行田市からランニングコストについて補助を受けているほか、ネットワーク主催イベントへの協力をいただいています。

行田市社協からは、ネットワークの運営面で様々な後方支援をいただいています。

立ち上げ時の苦勞

各団体間の連携が重要だと感じていたので、個々のニーズや問題点を理解し共有するためのコミュニケーションが欠かせませんでした。ネットワーク全体の統一感を持たせながら、各団体の特色や独自性を尊重するバランスを取ることが難しかったです。

さらに、ネットワーク全体の運営資金を確保するためのスポンサーや寄附者探し、地域社会や行政との協力関係を築くための活動にも多くの時間と労力を費やしました。

しかし、これらの苦勞を乗り越え、子どもたちに安定した支援を提供できるネットワークを作り上げることができました。

ネットワークのメリット

- ・困っている世帯からの問い合わせが増えた
- ・窓口が広がったことで、急な問い合わせにも対応ができるようになった
- ・各団体の困りごとや悩みを共有でき解決しやすい
- ・感染症やアレルギー対策などの共有ができる
- ・企業等からの支援が受けやすい
- ・支援が必要な子どもに、お互いの子ども食堂を紹介できる

地域ネットワーク 事例③



基本情報

加須市子育て応援子ども食堂・フードパントリー団体連絡会

活動エリア：加須市

加盟団体数：13団体

支援企業：8社

加須こどもまんなか広場



主な活動内容

1. 団体連絡会
地元支援者と共に、市民を巻き込んだ子育て支援を考える交流会等
2. 団体研修会
こども食堂とフードパントリーの連携、情報交換、勉強会等

立ち上げの経緯

加須市内のこども食堂団体・フードパントリー団体各々の課題解決と、持続可能な運営、そして、こどもの居場所づくりに向けたネットワーキングをめざし、団体連絡会を設立しました。

行政と団体の連携

市は、各団体の運営が継続できるよう、共同倉庫や会場使用料、燃料費などの経費の一部を補助してくれています。また、地元企業・団体、社会福祉協議会と円滑な連携・協働が図れるよう、定期的に市民フードドライブを開催するなど、顔の見える関係づくりの促進を支援してくれています。さらに、こどもや子育て支援に関わる行政サービスの積極的な情報提供や適切な助言・介入も行っていたいただき、安心して活動できる環境づくりを進めてくれています。

立ち上げ時の苦労

市内で、こども食堂とフードパントリー両方の活動を行っている団体が少なく、それぞれのコミュニティの運営方法やルール、ガバナンス等を互いに理解する機会を設けることに苦労しました。

また、所属団体が多いことから、個々の団体の現状や課題を共有し、話し合うことの重要性を痛感しました。各団体独自のポリシーや価値観、思いを一番に尊重し、一方的に管理・統制しないよう、こどもをまんなかにした緩やかなネットワークの構築をめざしました。

資金集めの方法

助成金の獲得や寄贈品の調達にどの団体も少しずつ限界を感じており、持続可能な運営に向けた課題の洗い出しと整理を行いました。その結果を行政に報告・相談したところ、市の子育て支援事業として予算化していただきました(期間限定の自走支援)。

その予算で市民や企業向けのリーフレットを作成し、さまざまな市内イベントで積極的に配布する等、ファンドレイジングを目的とした広報活動に力を入れました。

また、フードドライブの協力団体・企業を「子育て応援パートナー」、継続的に寄贈して下さる個人や企業等を「子育て応援サポーター」と位置づけ、ネットワーク内のミッションや課題を共有し、各々が主体的に取り組める関係づくりに努めました。